

五代格

詩人、小説家。大正二年福岡縣久留米生れ、昭和五十八

年歿（一九四一八二）。本名關須眞夫。昭和七年東京都立第一商業高等學校在學中、友人と同人誌『オメガ』を發刊。十一年井上靖、有馬義義

等の雜誌『文學生活』同人となり小説、戯曲を發表、また高村光太郎、大江瀬雄、鶴間、鶴華する。十六年日本書店で雜誌『國語と國文學』

の編輯に携はり、原稿依頼で山岸外史、次郎太宰治を頼る。一九二一年

熱海山中で愛人との申き圓のこ未遂。太宰の玉川上水入水の折より、山岸と共に雨中遺體探索が始まる。翌年未常草部の裁ひひと『週刊家

庭朝日』に毎週童話と執筆。一十五年未常の後遺で日本放送出版協會

に入社し、『週刊NHKテジオ新聞』編輯へ從事。その後、詩集『都

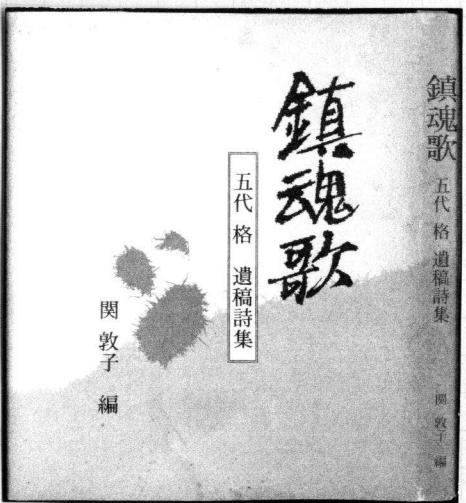
会・ナマケモノガウタウトキ』（昭和三十二年刊）、『眞介・夢みる

乞食』（昭和三十九年刊）、「S上小説『クロノスの聲』（昭和五十年

刊）」を出版した他、多くの未發表詩集、小説を遺したといふ。

遺稿詩集『鎮魂歌』（関敦子編、平成四年一月十五日詩人公會議出版）

刊。



鎮魂歌 五代格 遺稿詩集

# 鎮魂歌

五代格 遺稿詩集

関敦子 編